

## 令和5年度 病害虫発生予察 注意報 第5号

令和6年1月25日  
大分県農林水産研究指導センター  
農業研究部

- 1 対象病害虫 うどんこ病
- 2 対象作物 イチゴ
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 やや多い
- 5 発生量 やや多い

### 6 発表の根拠

(1) 1月16～19日に実施した巡回調査では、発生圃場率、平均発病株率、平均発病葉率、平均発病果率ともに平年より高かった(図1、図2)。

発生圃場率：20.0% (平年：6.1%、前年：10.0%)  
 平均発病株率：6.0% (平年：0.9%、前年：2.8%)  
 平均発病葉率：1.7% (平年：0.2%、前年：0.9%)  
 平均発病果率：0.3% (平年：0.1%、前年：0.1%)

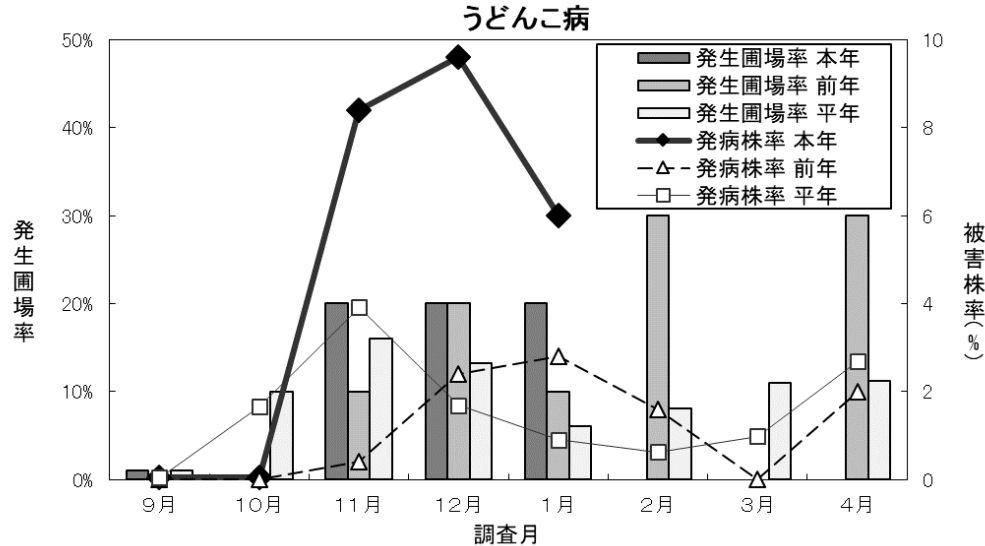


図1 病害虫発生予察巡回調査でのイチゴにおけるうどんこ病の発生圃場率  
(令和5年9月～令和6年1月)

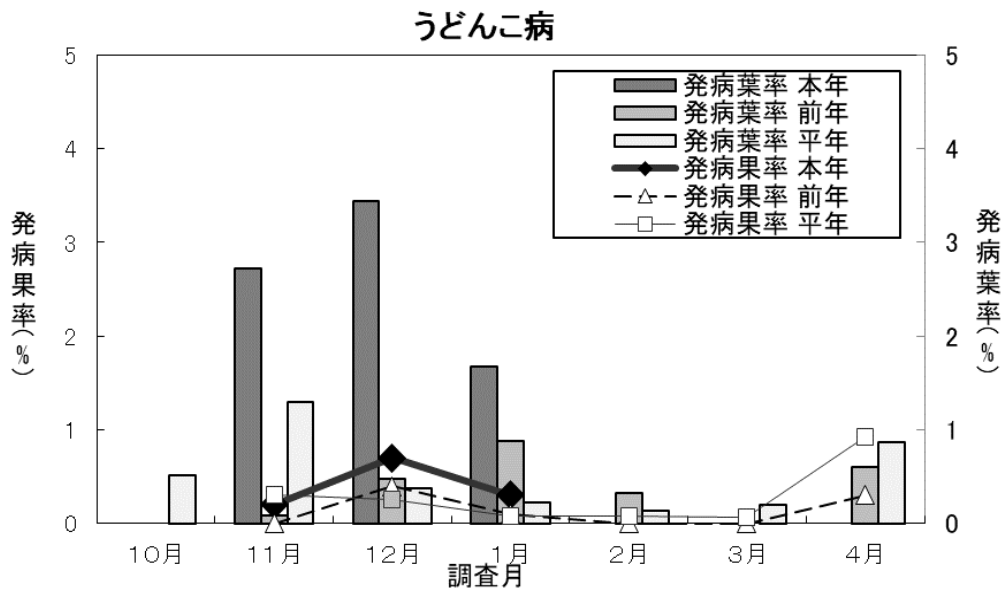


図2 病虫害発生予察巡回調査でのイチゴにおけるうどんこ病の発病葉率、発病果率 (令和5年10月～令和6年1月)

- (2) 本病は気温 20℃程度が最も発生しやすいが、福岡管区气象台が1月18日に発表した1か月予報では、向こう1か月の平均気温は、平年並 30%、高い確率 60%と予測されており、引き続き好適条件が続く可能性がある。

## 7 防除対策

- (1) 本病は、樹勢低下により発病が助長されるため、適切な肥培および灌水管理に務めるとともに、適期収穫を徹底する。
- (2) 圃場内の観察を徹底するなど、本病の早期発見に努め、予防散布や初期散布に重点を置くとともに、葉裏まで十分薬剤がかかるよう散布圧などに留意して防除を行う。
- (3) 本病は、発病後の進展が早く、防除遅れが生じやすいため、発病初期から治療効果の高い薬剤を中心に散布する。
- (4) 本病の耐性菌を防ぐために、同一系統薬剤の連続使用は避け、ローテーション防除を心掛ける。防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病虫害対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針」

(<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/boujoshishin.html>) の「イチゴ」項を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

病虫害対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>

